

ゆう活推進による 終業後の活動の変化

Pチーム
愛媛大学

大山, 江田, 高石, 田地, 西, 松本

やること

ゆう活を推進するために・・・



働く人の※労働時間などの変化による
終業後の活動への影響を分析したい

※労働時間: 時刻から退社時刻までの時間

直帰 or 立ち寄り



労働時間を減らす

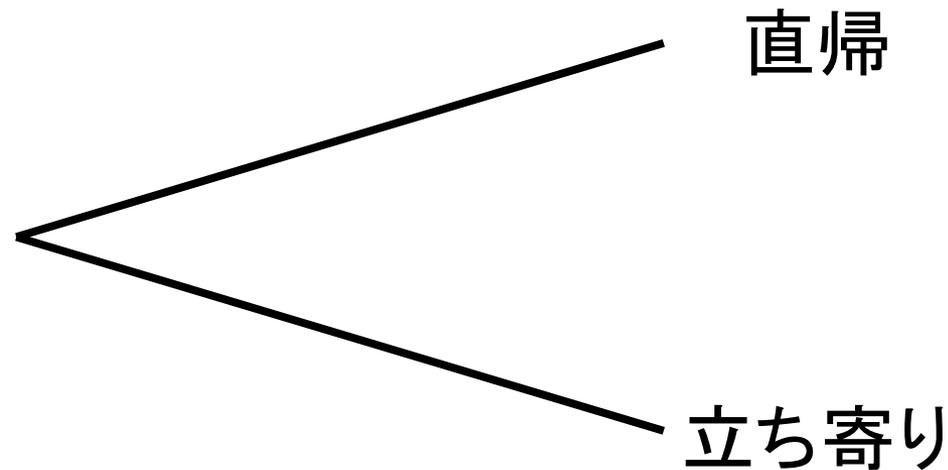


労働時間をずらす



分析方法

2項ロジットモデル



効用関数

$$V_{\text{立ち寄り}} = \beta_0 + \beta_1 \text{労働時間(h)} + \beta_2 \text{出勤(到着)7時以前D} \\ + \beta_3 \text{出勤(到着)7~8時D} + \beta_4 \text{自動車D} + \beta_5 \text{通勤時間(h)}$$

分析結果

説明変数	推定値	t値
定数項	2.120	3.349
労働時間(h)	-0.364	-4.803
出勤(到着)7時以前D	5.606	6.587
出勤(到着)7 [^] 8時D	2.862	5.131
自動車D	-0.880	-1.746
通勤時間(h)	-1.487	-2.325
尤度比	0.537	
自由度調整済尤度比	0.502	
サンプル数	248	

推定値

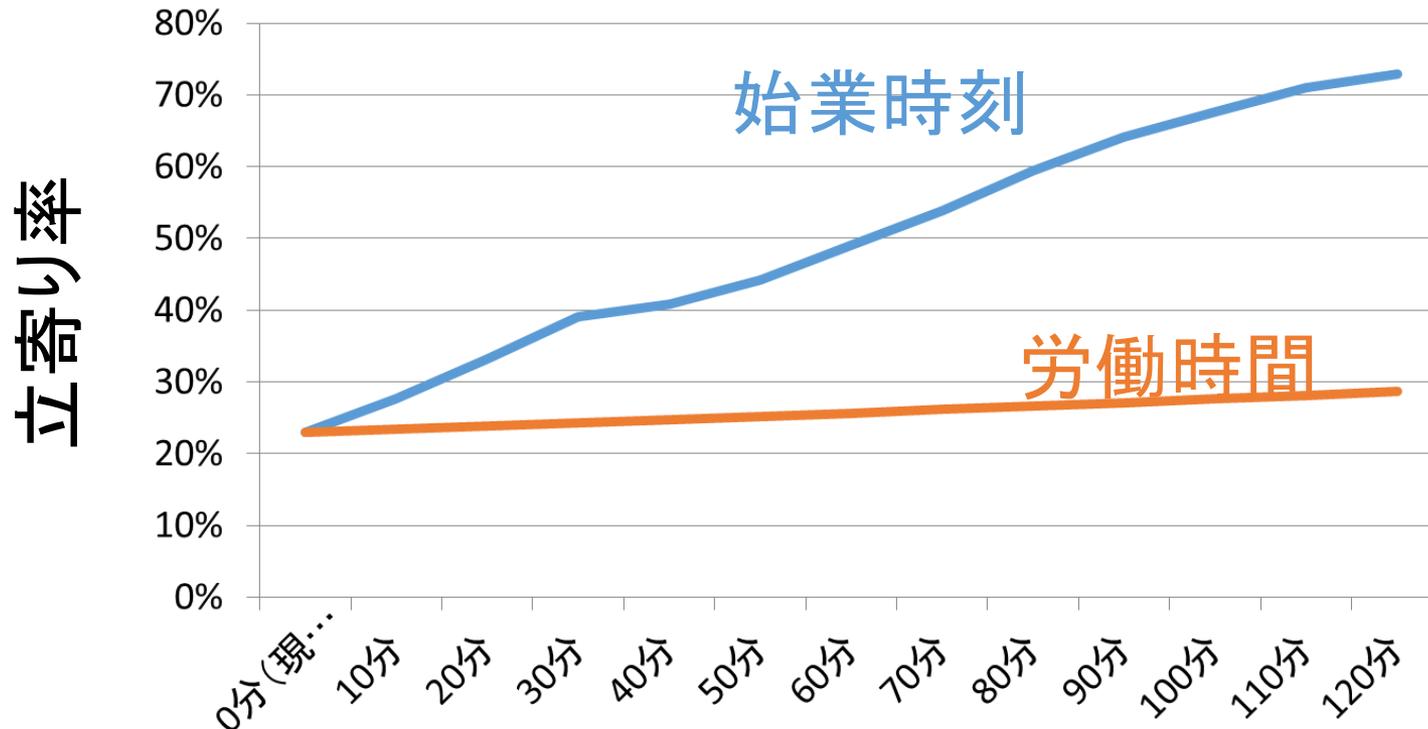
正: 立ち寄りやすい

負: 直帰しやすい

政策シミュレーション

- 始業時刻を10分～120分早める
- 労働時間を10分～120分短縮
- 労働時間 8時間以上 208/248
- 8時間以上の人の労働時間を10分～120分短縮

政策シミュレーション



立寄り率の変化

始業時刻を早める→最大3倍以上増加

労働時間を短縮→立寄り率は微増